

福井市社北小学校

令和5年度 7月号

R5.6.29 発行

〒918-8055 福井市若杉4丁目143

☎0776-35-2821 (fax:35-2719)

Mail : [y-kit-e@fukui-city.ed.jp](mailto:y-kit-e@fukui-city.ed.jp)



♪学校のブログへは、  
こちらからどうぞ♪  
「社北小 Diary」でも検索  
できます↓↓↓HP から  
もアクセス可能です。



子供たちや学  
校の様子をお知  
らせします

♪ 感動をありがとう! ♪

福井市連合音楽会 6月20日(火)



6月20日(火)・21日(水)の2日間にわたり、福井市連合音楽会が4年ぶりに開催されました。福井市内の小学校50校が、4部に分かれてフェニックスプラザ大ホールに集まり、自分たちの演奏を発表したり他校の演奏を鑑賞したりしました。

本校6年生は、20日(火)午後に参加。会場には、たくさんの小学生がいるため、最初はテンションが高めで「大丈夫かな?」と思いましたが、開始のブザーが鳴った途端、すぐに緊張した様子で背筋が伸びました。



アナウンスやあいさつの後、いよいよ演奏会が始まりました。まずは、西藤島小学校の演奏。10番目の社北小学校の演奏曲目は、『Believe(ビリーブ)』です。し〜んとした会場に、まずトーンチャイムの音が鳴り響きました。ピアノの前奏に続き「♪たとえば君が傷ついて〜」と始まりました。練習通り?本番ものびのびと歌い、会場いっぱい歌声が広がりました。楽器を入れたり手話を入れたり、オリジナルの工夫がある演奏は、どの学校の子供たちの心にも思いが届いたのでしょう。演奏が終わると歌声に負けにくいぐらいの大きな拍手をいただきました。演奏後の子供たちの表情からは、充実感と満足感でいっぱいということがわかりました。♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

演奏会は、あっという間に終わりました。これまで、自分たちの演奏をいかに伝えるかということを考えて練習してきましたが、当日は、他の学校の演奏に心を大きく動かされました。いろいろな学校があります。学校の規模にかかわらず、どの学校も自分たちに誇りと自信をもって演奏していました。本当に素敵な演奏をありがとう!



校内発表や当日演奏の様子は、社北小学校HPにある学校ブログからご覧になれます。

社北小HP→社北小ブログ→社北小Diary(6/16と6/20)に校内発表や連合音楽会の動画のリンク有ります。



校内発表 version!





図工「光のプレゼント」の出来上がった作品で活動する2年生。我先にと「校長先生～！見て～！」「私のも見て。」と次々に寄って来ます。そと来て、「あのね。」と、どうやって作ったのかを説明する子もいます。

だれかが水を出すと「勝手に水を出してもいいんか？」「わりい～。(悪い)」と声。担任の先生が水を出してくれると、今度は「押さないでよ！」など、ぶつかり合いもあります。そしてそのうちに譲り合いが始まります。水場はあきらめて、日差しだけで楽しむ子もいます。いろいろな子がいて、いろいろな考えがあります。

先日の全校朝礼では、「自分とは違う思いをもっている人がいる」「いろんな考え方がある」ことを伝えました。



## タイミングについて考える

何らかの行為をすべき時だという判断・選択・コントロールのこと。どの時、どの瞬間にすべきか、ということに関する、人間による(あらかじめの)判断・選択のこと。(ウイキペディアより)

「タイミング」という言葉を知らない方はいないと思います。「タイミングを見計らう」「ボールを打つタイミング」など、日常的に使われますね。その私たちもよく使う「タイミング」について、改めて考えました。

6年生が参加した連合音楽会でのことです。演奏が終わると、聴いている側は拍手をします。それは、当然のことです。会場にいる人は演奏をした人に対して、敬意を表して「素敵な演奏をありがとう！」「感動したよ！」と心を込めて拍手をします。連合音楽会でも、演奏が終わるたびに日頃の頑張りへ互いに拍手を送りました。



最初の学校が演奏を終えたとき、指揮者が手をおろす前に拍手が鳴り始めました。音楽の教員として「拍手がちょっと早い」と、違和感を覚えました。一般的には指揮者が手をおろす前の拍手はマナー違反であり怒られることもあります。また、学校ごとの演奏ですから、本来なら指揮者と伴奏者が会場に向かって一礼したときに拍手を送ることが礼儀です。「久しぶりにこれだけたくさんの児童が集まっての音楽会だから、感動で思わず拍手してしまったのだろう」と思いました。ところが、拍手のタイミングはどんどん早くなるばかり。ある児童が「拍手(のタイミングが)早くありませんか？」と言いました。その後、隣にいた先生も言いました。「拍手が早すぎませんか？最後までピアノの音を聴きたかった。」

一瞬迷いましたが、すぐに舞台のそでに行き、「拍手のタイミングを教えてあげてほしい。久しぶりの音楽会で子供たちはマナーを知らないのかも。音楽会のマナーを学習する良い機会です。」と伝えました。その後、拍手のタイミングについてのお願いが流れ、音楽会が続きました。話によると、1部の時から拍手が早かったことやどの教員も早いと感じていたとのこと。2部での指摘を受けて、3部・4部では演奏会前に拍手のタイミングについてアナウンスがあったそうです。

拍手のタイミングもそうですが、支援や指導のタイミングについても考えさせられました。気付いた教員がすぐに伝えていれば、最後までピアノの音を聴くことができたでしょう。1部には、もやもやしたまま、また、ルールを知らないまま演奏会を終えてしまい、演奏会のマナーを学習するタイミング(チャンス)を失った児童もいたかもしれません。

ものごとにはタイミングがあり、それを失うと、2度と機会がなかったり、事態が大きくなり手が付けられなかったりする場合があります。

以前のひまわり教室での警察の方の話を思い出しました。「万引きなどの事実を知ると、保護者の方はショックを受けます。うちの子がそんなことをするはずがないと怒ったり、友達に誘われたからだ」と友達のせいにして、場合によっては、子育てが悪かったのではないかと自分を責めたりします。でも、それはしっかりとおうちの方が事実と向き合い、家族で原因は何だろうかと話し合うタイミングです。親も子も成長するチャンスととらえてほしいと思っています。」

耳の痛い事実の確認や指導は、どちらにとっても辛い場合があります。しかし、双方にとって良いタイミングでそれを行うことで、私たち大人も子供も一緒に考え、共に育つチャンスととらえていきたいなと改めて思いました。



3年生以上は、県営プールで学習をしています。天候に左右されず、GOODです。PTAのボランティアの方の監視に助けていただいています。

**保護者懇談会(7/5～7/7)** 日頃の学校での様子をお伝えし、ご家庭での様子をうかがうことで、学校と家庭がお子さんのために一緒に考えていく場にします。よろしくお祈りします。